



2016
vol.33
Association
Japonaise de la
Presse
Sportive



ン S

極限のドラマを記録する。



世界記録、大会記録。
人類の限界が更新される瞬間を
いつも最前線で見つめてきたのが、
プロフォトグラファーとキヤノンの「1」だった。
描写力、高速性、信頼性、そして操作性。
すべてにおいて最も優れた機材だけが選ばれ、
踏み込むことを許される舞台上、
新しい「1」も彼らの眼となり、
歴史が変わる瞬間を世界へ伝える。

EOS-1D X Mark II、誕生。



CP+2016 ワールドプレミアアワード
レンズ交換式カメラ部門

NEW
2016年4月下旬発売予定

EOS-1D X Mark II

●有効約2020万画素35mmフルサイズCMOSセンサー ●常用ISO 51200、H3:409600相当の高感度 ●高速・高画質処理を可能にする、デュアルDIGIC 6+ ●新開発の約36万画素RGB+IR測光センサー ●AF/AE追従で約14コマ/秒*、最高約16コマ/秒*の高速連続撮影 ●全点F8対応、新61点レティクルAF ●GPS機能、有線LAN機能内蔵 ●DCI 4K/60P、フルHD/120Pハイフレーム動画撮影 ●すべてのEFレンズでデュアルピクセルCMOS AFが可能 ※バッテリーパックLP-E19使用時。 ※条件によって最高連続撮影速度が低下します。

Index

- 06 Sports scene topics
羽生結弦 (フィギュアスケート)
- 08 サッカーU-23日本代表

特集

11 ラグビーW杯 イングランド大会

- 26 Retrospective
アルペンスキー

特集

32 夏季オリンピック リオ2016

- 44 Retrospective
寺島武志 (セバタクロウ)

はじめに

戸塚 啓

AJPSマガジン編集委員長

本誌は1年という単位で、スポーツの様々なトピックやシーンを切り取っていく一冊である。これが本当に難しい!

とある冬の一日の週末に、取材へ出かけるとする。プロ野球のオープン戦やサッカーJリーグが開催され、スーパーラグビーやバレーボールも行われている。高校生や大学生の各種競技も、週末に公式戦が組まれる。

取材対象は海外にもいる。スキーのジャンプ競技、体操、バドミントン、テニス、卓球などの国際大会で、日本人アスリートが奮闘している。欧州のサッカーシーズンでは、複数のリーグで日本人選手がプレーしている。

公式記録の残る試合や競技会だけではない。練習の取材も、スポーツを語るうえで欠かせないものである。取り上げるべき競技と選手は、数え上げたらキリがないのだ。

左ページの目次に並ぶコンテンツは、かなりの議論を煮詰めた結果である。それでも、写真や原稿の発注を進めていくなかで、「やっぱり取り上げるべきだったのでは?」と、編集部内で議論にあがる競技や個人があった。そういう意味では、未完成の完成品、と言えるかもしれない。

まったく違う思いもある。思わずページを止める写真がある。物語が立ち上がってくるような瞬間が、本誌には取められている。

じっくりと読みこめる原稿がある。感動を思い起こさせるフレーズがあり、あまり報道されていない真実がある。

2015年のスポーツを切り取る意味では、物足りなさを抱かせる内容かもしれない。それでも、一つひとつの作品のクオリティは高い、と考える。「はじめに」の終わりに、本年度も広告のご出稿をいただいた賛助会員各位、写真と原稿を提供してくれた会員各位に、この場を借りて謝辞をお伝えしたい。





『スペシャルプライスプラン』
作品A-3or半切(30枚まで)だけご準備頂ければ、
これ以上一切頂きません!!

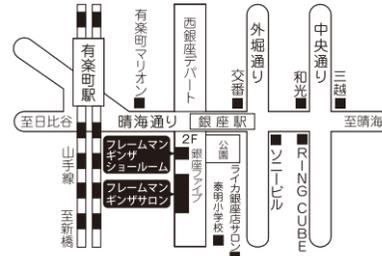
銀座で1週間の個展 or グループ展が
なんと **¥150,000**円(税込)!

ミニギャラリー(15枚迄)
¥30,000(税込)

早い者勝ち!! 応募殺到中



エキシビジョンサロン銀座
フレームマン・ギンザサロン



〒104-0061
東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ2F
TEL & FAX 03-3574-1036
期間中無休/開館時間10時~19時
最終日は17:00まで

(株)フレームマン 本社
〒130-0026
東京都墨田区両国3-10-4
(旧 本所松坂町 吉良邸跡地内)
TEL 03-5638-2211 (代)
FAX 03-5638-2219
Eメール frameman@frameman.co.jp
関連会社 **プロフレーム(株)**
TEL 03-3632-2620 (代)

詳細はこちらをご覧ください <http://www.frameman.co.jp/>



昨年11月のNHK国際長野の演技で、322.40得点し、自身初世界初となる300点越えをする。翌月のGPファイナルinバルセロナで330.43を得点し、前回自身が出した初の300点超え世界歴代最高得点をあっさり更新してしまった。

「絶対王者」「異次元」「覚醒」そんな言葉がTV、新聞、雑誌を飛び交い踊る。まさにそのとおりである。

僕が今シーズン羽生結弦を撮影して感じたことがある。僕の思う僕の好きな「羽生結弦」の写真が撮りにくくなったのだ。彼の普段のユニセックスな雰囲気ではなく、演技中に見せる力感のある表情、テーマと曲とを自身の中で理解し独特の感性で増幅させ、表現を爆発させ、汗を流らせる姿が僕は好きだ。が、今シーズンはこれがなかなか写真として撮りにくい。

なぜだろうかと思え、僕なりにわかったことがある。彼が異次元に行き、覚醒したために彼の何かが変わったのだ。あまりにも次元の高い技術と想像を超えた練習量で身につけたスタミナは、言い方は悪いが、前ほど必死に演技しなくても自然体のスケートイングを可能にしたのではないかと。

確立した技術とスタミナは、力まなくてもジャンプを成功させ、身体をしなやかに動くようにさせたはずだ。例えば、カールルイスやウサイン・ボルトは走るとき、肩の力が抜けて顔は舌が出たりする。例えば、歌手は高音を出す時、力を抜くという。だから、羽生結弦も意識をしないと、僕の好きな力感ある表情は作れなくなったのではないかと。そして今後さらに演技が表情豊かになり芸術点も上がるのだろう。

写真・文/スエイシナオヨシ

Sports Scene Topix

Figure skating

羽生結弦



02



男子サッカーの国際大会で、こんなにも興奮したのはいつ以来だったろう。16年1月にカタールで開催されたリオ五輪の男子サッカーアジア最終予選は、ジェットコースターのようなゲームの連続だった。

五輪の男子サッカーは、各地域の予選までU-23(23歳以下)のチームで争われる。本大会ではオーバーエイジ(OA)を招集できるが、出場権は23歳以下の選手だけでつかまなければならない。本田圭佑や香川真司の力を、借りることはできなかった。

見通しは厳しかった。

最終予選は16か国がカタールに集い、上位3か国がリオ行きの切符を得る。ところが、手倉森誠監督が率いるチームは、20歳以下の世代からアジアで負け続けてきた。最高成績はベスト8である。準々決勝の壁を越えることのできていないチームにとって、最低でも3位決定戦に勝つ必要のある最終予選は、相当に高いハードルと言わざるを得

なかった。

それがどうだろう。北朝鮮との初戦を1対0で乗り切ったチームは、タイ、サウジアラビアも退けて、グループリーグを首位で通過する。

イランとの準々決勝は、0対0のまま延長戦へもつれる。生き残りを賭けた30分間に3ゴールを叩き出し、鬼門を突破した。だが、ハラハラドキドキは、まだプロローグだ。

準決勝のイラク戦は、1対1で終盤を迎える。時計の針が追加タイムに突入したところで、日本は勝ち越した。五輪出場を決めた。

大きな達成感が押し寄せても、チームは勢いを止めない。仇敵・韓国との決勝では2点のビハインドを背負うが、残り20分からの3連発で試合を引っ繰り返す。何というスリル、何というドラマ!

アジアで勝ったことのない世代は、大陸王者としてリオ五輪へ挑む。目標は48年ぶりのメダル獲得——釜本邦茂が躍動した68年大会以来の表彰台である。

文/戸塚啓

Sports Scene Topix

Soccer

日本代表 U-23 サッカー



ENGLAND 2015

Rugby World Cup



At the heart of the image

9500万本
NIKKOR

未知なる光を、捕捉せよ。

未踏の領域を切り拓く、動体捕捉力。ボールを脱いだ、高感度性能。
153点AFシステム、進化した連続撮影性能、最高常用感度ISO 102400、4K動画機能…
すべての刷新は、かつてない光を捉える為に。世界はついに、新たな世界を手に入れた。



D5

NEW 2016年3月26日(土)発売予定 価格: オープンプライス

- 99点のクロスセンサーを含む広域・高密度の153点AFシステム
- AF/AE追従で約12コマ/秒、14ビット記録ロスレス圧縮RAWでも最大200コマまで可能な高速連続撮影
- ニコン史上最高の常用感度ISO 102400 (Hi 5: ISO 3280000相当まで増感可能)
- 自社新開発のニコンFXフォーマットCMOSセンサー
- 新画像処理エンジンEXPEED 5
- 4K UHD動画対応
- タッチパネル採用の3.2型 約236万ドット高解像度モニター
- Lexar Professional 2933x XQD 2.0のメモリーカードを使用した場合。
- 記録媒体は別売りです。

ニコンカスタマーサポートセンター
0570-02-8000

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30~18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日) ●ナビダイヤルがご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。●ファクシミリでの相談は、(03) 5977-7499へご連絡ください。

www.nikon-image.com
株式会社 ニコン・株式会社 ニコン イメージング ジャパン

©Shinji Akagi

RUGBY

W in England
CUP

ラグビーW杯イングランド大会

2015



オールブラックス連覇

ああ、までも…。戦いの前の叫び、戦慄のHakaがスタジアムを圧倒する。オールブラックスである。我がワールドカップの記憶はオールブラックスとともにある。

初めての1987年W杯ではオールブラックスの「ブラック・ブランケット・パワー」に驚いた。W杯史の1行目。だれもがオールブラックスの戴冠に納得した。

その後、トップにたどりつけない。ウソだろう。毎回、取材しては、まさかの敗退に我が目を疑った。でもNZで開催された2011年W杯では24年ぶりにエリスカッ

プを取り戻した。そして、今大会、連覇である。

世界一のチームには、世界一のキャプテンがいる。NZの至宝、リッチー・マコウである。NZのファンたちからはこう、呼ばれる。「The man of all」。直訳すると、「すべてを備えた男の中の男」といったところだろうか。

マコウの接点でのからだの使い方はエクセレントだった。時にするく、時に激しく。「ボールあるところにマコウあり」。決勝戦が148キャップ目（世界最多記録。34歳はW杯から2週間後、現役引退を表明した。僕らラグビーメディアは、リッチー・マコ

ウと同時代に生き、彼のナマのプレーを取材することができたことを神に感謝しなければならぬ。アイ・サンク・ゴッド！

決勝戦直後に引退を口にすれば、メディアの露出の多くを奪ってしまう。いかにもマコウらしい配慮がみえる。引退後は、クライストチャーチでヘリコプターのパイロット。

むろん役者はW杯ステージにたくさんいた。NZのSOダン・カーター、CTBソニー・ビル・ウィリアムズ。豪州のFBイストラ・エル・フォオラウは異次元のランニングを随所で見せた。個人的には、元釜石シーウェイブスの時に取材した気のいい豪州ロックのスコッ

ト・ファーデーの奮闘に胸がじんときた。3位決定戦では、南アフリカのフライアン・ハバナである。もう32歳。W杯通算最多トライ記録（15）の更新はならなかったけれど、タイミング良くボールに絡み、チームの勝利に貢献した。

夢のW杯が終わる。国内ではトップリーグが始まった。W杯で活躍したトップ選手が、同リーグに参戦した。日本のファンは幸せなことである。国内にいながら、世界のプレーを堪能できる。さらに年明け2月から、世界最高峰のプロリーグ、スーパーラグビーが始まった。W杯



©Shinji Akagi



©Shinji Akagi



©Shinji Akagi

RAGBY WORLD CUP ENGLAND 2015

ベスト4のNZ、豪州、南ア、アルゼンチンのプロクラブが王座を争う。おっと、日本からも『サンウルブズ』が参戦した。
 ぜんぶで18チームである。2月27日の開幕戦。サンウルブズはライオンズ(南ア)に敗れた。黒星発進。でも主将の堀江翔太ら日本代表の選手たちはラグビー理解度、プレーのスタンダードの向上を印象付けた。
 日本代表が海外チームにも移籍した。FB五郎丸歩がレッズ(豪州)へ、主将リーチマikelはチーフス(NZ)、田中史朗はハイランダーズ(NZ)へ。ステージが上がる。
 3年後のW杯日本大会に向け、ラグビーの

世界がひろがる。ワクワクする。訃報がひとつ。オールブラックスのレジエンド、ジョナ・ロムー氏が2015年11月18日、NZで亡くなった。先のラグビーW杯イングランド大会で姿を見たのに。196cm、120kgでありながら、100mを10秒台で爆走した。1995年と99年のW杯に出場し、大会通算最多の15トライを記録した。1996年には重い腎臓疾患「ネフロローゼ候群」と診断され、長期休養を経て復活した。彼ぞ、勇敢なファイター、まさにラグーマンだった。40歳で逝った。合掌。
 文松瀬 学

王国の美学

「ジャパン」ことラグビー日本代表が帰国した翌週、ラグビーワールドカップは準々決勝の週末を迎えていました。

開催国イングランドの敗退で欧州×南半球の構図となったベスト8の戦いは10月17日に2試合が行われ、18日はカーディフでアイルランドがアルゼンチンに敗退。3試合終了時点で、南アフリカ、ニュージーランド、アルゼンチンの勝ちが揃ってしまいました。

欧州勢の取りを務めることになったスコットランドはオーストラリアにリードを許す展開で後半戦に。折りしも降り出した激しい雨の中、インターセプトから中央にトライを決

めて同点に追いつきました。レイドローのコンビレーションも決まって2点リード。この2点差でオーストラリアから勝利を奪うのか！高揚感に包まれたトイッケナム・ラグビー場は終盤のオーストラリアのPGの場面で静まり返りました。

オージーの希望、スコットの祈り。PGはポスト中間を通過してオーストラリアが勝ち越し。1点差の敗戦となったスコットランドは降りしきる大粒の雨を受け、実に清らかな堂々とした敗者でありました。

その後の準決勝、3位決定戦、決勝で対戦した南半球の4カ国の中でニュージーランド

のFW、HB、BKがそれぞれの役割を高いレベルでミスなく追及する能力には一日の長がありました。強く当たり、判断よく繋ぎ、しなやかに走る。

相手より速く楕円球を運ぶすべを熟知したチームがオールブラックスなのだ！というプレーを随所に見せてくれました。

決勝後半、連続トライで4点差に追い上げられた後にダン・カーター(NZ)が左足で放ったドロップゴール。その大きな放物線はラグビー王国の美学と、余裕と、貫録さえも感じさせる美しさでありました。

文ノ赤木真二



©Shinji Akagi



©Shinji Akagi

©Shinji Akagi

RAGBY WORLD CUP ENGLAND 2015

RUGBY WORLD CUP ENGLAND 2015

吉兆の虹。

ブライトンの奇跡。

かの歓喜の夜から半年が経った。でも、今も脳裏に残る異国の空がある。綺麗な「ダブル・レインボー」だった。よいことの起こる前兆といわれる、二重に重なったカラフルな虹である。

ラグビーの世界カップ(W杯)の開幕を3日後に控えたイギリスはブライトンの日本合宿地だった。練習を終え、エディー・ジョーンズヘッドコーチも選手たちも空をただ見上げていた。日本代表の稲垣純一チーム・ディレクターもしみじみと思い出す。

「きれいな虹がふたつ、グラウンドの上にはできたんだよ。これは何かの吉兆だと思った」

日本ラグビーの歴史が動き出そうとしていた。後出しじゃんげんのように恐縮ながら、ラグビーW杯を1987年第1回大会からすべて取材してきた筆者も、今回は何かやってくれそうだ、そう感じていた。

だって、エディーという強烈な意志を持った指揮官のもと、有能なスタッフと覚悟を秘めた選手たちが「ワンチーム」となっていたからだ。何度もカオス(混とん)はあった。崩壊寸前までいった。でもカオスを乗り越え、イングランドではひとつになった。

選手は、自分たちが日本ラグビーを変えるんだ、という大義を持っていたからである。だから、エディーの苛烈なハードワークにも耐え抜いた。日本の弱点とされてきた「自主性」を選手たちはつかんだ。

選手たちは自ら、国歌斉唱の練習をはじめた。W杯代表は31人、うち外国出身選手は10人だった。外国選手も歌詞の意味まで理解し、何度も大声で「君が代」を歌う練習を積んだのだった。

「JAPAN WAY」と書かれたパズルもそうだった。開幕戦の南アフリカ戦の直前、エディーほかスタッフ、選手たちがみんなワンピースをはめていく。最後のピースは主将のリーチマイケルだった。

試合前夜のミーティング。4年間を振り返る5分間程度のビデオを見た。最後に画面に言葉が浮かび上がる。全員が泣いた。

<CREATE THE HISTORY>

エディーが指揮官になって4年間、1年目のテーマが「フィットネス」、2年目は「ストレングス」、3年目は「チームプレー」、そして勝負の4年目が「自主性」だった。

2015年9月19日の南アフリカ戦。ロスタイム。日本はゴール前でペナルティーキックをとった。リーチマイケル主将は迷わず、スクラムを選択した。ゝ



©Shinsuke Ida

「新しい歴史を創れ！」の結実



©Shinji Akagi



©Shinji Akagi



©Shinsuke Ida



©Shinsuke Ida

スタンドのコーチングボックスのエディーは「ショット！（PK）」と怒鳴っていた。3点を加え、同点でいい。でも、自主性が備わった選手たちは逆転のトライを欲した。

「スクラム、組もうぜ！」

34-32。それまで7大会で1勝しかしたことなかった日本が、W杯2度優勝のラグビー大国を破った。日本代表は戦う集団と化していた。37歳のレジェンド、キンちゃんこと大野均は男泣きした。

スクラムコーチのフランス人、マルク・ダルマゾは漏らした。

「あの瞬間、日本の選手は“草食動物”から“肉食動物”に変わった」

結局、日本は3勝1敗でW杯を終えた。勝ち点差で決勝トーナメントに進めなかった。五郎丸歩は悔しくて泣いた。でも世界への扉は開けた。W杯で一番、印象を与えたチームにも選ばれた。

日本の選手のがんばりは、このページの写真をみてくれば一目瞭然である。説明不要。選手たちはタフになった。

安定したスクラム、ラインアウト。世界一のフィットネス。低く鋭いタックル。エディーは「忍者ポディーと侍の目を手に入れた」と例えた。ああ、試合を思い出すだけで、胸が熱くなる。ビールを飲みたくなる。

五郎丸歩は言った。

「奇跡ではなく、勝利は必然です。ラグビーにヒーローはいない。みんながヒーローです」

正しい準備と究極のハードワーク。ベストを尽くす貴さを五郎丸は教えてくれた。

もはや空前のラグビーブームである。でも、これをラグビー文化にしないといけない。3年後の2019年、僕らは再び、夢を見ることができるのか。吉兆の虹が、英国から日本の空へ。

文／松瀬 学



IRB RUGBY WORLD CUP 2015

canterbury





Retrospective Alpine Ski

出身は東京の目黒区です。都立駒場高校三年生のとき、初めてスキーに行って、その後、一年浪人して大学受験が終わった頃、もう一度高校時代の仲間とスキーに行きました。

学習院大学に入学すると、スキーのサークルを探したんですけど、学内には競技スキーのサークルしかなかったんです。当時、競技スキーがどういものなのかなんて知りませんでしたけど、まあでもスキーだからいいか、って入部しました。

そしたら、あっという間に、はまりましたね。ポールってやり始めると、どんどん面白くなるんです。もちろん当時の自分なんて全然スキーうまくないですけど、スピードを上げながら自分の肉体をポールにぶつけてくと、なんだかワールドカップに出場するような選手たちに少し近くなったような気になりました。そこから4年間、大学時代はスキーばかりやってましたね。大学を出た後は高島屋に就職して、8年働きました。最後の一年間は、横浜高島屋の婦人服売り場、社内でも一番売り上げのある花形部署です。でも、なんかこれは違うなって感じていました。そこから、写真を撮ることにしたんです。

なぜ写真を撮るようになって決めたのか？うーん、なんですかね。社会人になって8年間スキーはやっていましたけど、写真は別に撮ってもいなかったし、すごく興味があつたわけでもないんです。でも、その時はこんな風に思っています。一日の終わりに、ああ今日もいい仕事ができたと、やりきったな、

アルペンスキーを追いかけて

写真/田中慎一郎 構成・文/近藤篤



Retrospective Alpine Ski

の中継を見るたび、本当にこんな空間がこの世界に存在するんだって、いつも憧れていました。山も、人も、雰囲気も、すべてが自分の生きている世界と全く異なっていて、集まる人の多さとか、その熱狂ぶりとかも全然違うんです。飛行機に乗って、空港について、レンタカーを借りて山の中へと入って行けば、確かにそこではワールドカップをやっているんですけど、日本にいてテレビを眺めていると、その世界を実感はできませんでした。

だからですかね、毎年足を運び続け、今でもドキドキするし、興奮もします。初めてここに来て感じられた感動が今もしっかりとベースにありま

す。

確かに、金銭的には厳しいものがあります。スキー業界自体、ビジネスのピークはずっと前に過ぎてしまっただし、温暖化の進む昨今、いつまでこの競技は存在し続けられるんだろう、って考えさせられるくらいですから。

毎年、正直悩みますよ、行こうかな、やめておこうかな、って。でも気がつけばやっぱり来てしまっているし、一度来てしまえば、ああ来てよかったな、この写真を撮ってるからカメラマンやってる感じがするんだな、って思えるんです。

贅沢な時間ですよ。朝、美しい光景の中で目覚めて、その世界の中でトップクラスのスキーヤー達の姿を撮りつつける日々なわけですから。

スキーって足に二本長い板が付いていて、手に二本長い棒を持って、それで滑ってゆくんですけど、そのシル

いいもの作れたな、そう自分が思えるのは写真なんじゃないかなって。なんの根拠もなかったんですけどね。

その後一年間写真の専門学校に通って、中退後は広告関係の写真事務所で見習いみたいなこともさせていただきました。でも正直なところ、やっぱり自分で撮らなきゃダメだなって。年齢も30歳を過ぎてたし、あまり速回りはできないじゃないですか。学校の先生も、君なら最初からフリーでやったほうがいいよ、って言ってくれてたし、じゃあもう最初から一人でやっちゃおうかって。そこからは雑誌の裏表紙に載ってる番号に直接電話して、編集の人たちに写真見てもらって。

そんな風にしてスポーツカメラマンになって、最初の一年は日本国内のレースを撮って回りました。

翌年、個人的に追いかけていた選手がワールドカップに参戦することになって、僕も行きたいなと。写真を買ってくれるツテなんかなかったし、これから先の収入がどうなるのかって不安がなかったわけじゃないです。でも、僕はカメラマンとして生きて行く決心はできていましたから、たとえ赤字になってもやっぱり行こう、そう心に決めてました。そんな時、先輩のカメラマンから「俺の代わりにO△選手を撮ってきてくれないか？」って連絡が入って、仕事としてもワールドカップに向かうことができました。

あれから14年経ちます。この間ずっと、飽きることなくアルペンとは向き合ってきました。

大学時代、テレビでアルペンスキー



棒と板を身につけているだけで、
なんであんなに美しいんだろう

エットがすごく美しいんです。バレエダンサーじゃないけど、なんで棒と板を身につけているだけののに、あんなに美しいんでしょうね。

アルペンの優れた写真を撮る秘訣ですか？ やっぱ、横着をなるべくしないことに尽きる、んじゃないでしょうか。撮影の舞台は山が相手なので、急に天候が変わることもよくあります。その天候が悪い方ではなく良い方に変った時、自分が良い写真を撮れる位置に居るかどうかが、それが重要だと思っんです。だから僕はインスベクションの時間、朝早くから会場に行きます。今日はどうせ曇ってるから競技が始まる直前からいいか、なんてサボっていると、絶好のシャッターチャンス逃してしまう気がします。

情熱があれば、いい写真は撮れると思います。でもアルペンスキーが本当に好きじゃないと、この仕事は続かないんじゃないかな。精神的にも、肉体的にも、結構ハードな撮影ですから。僕自身は、とにかくその日1日を夢中になって撮影できればいいな、と思っただけです。被写体に撮らせてもらおうその一瞬を逃さずに。

2016年リオ・デ・ジャネイロオリンピック



©Takabisa Hirano



©Takao Fujita



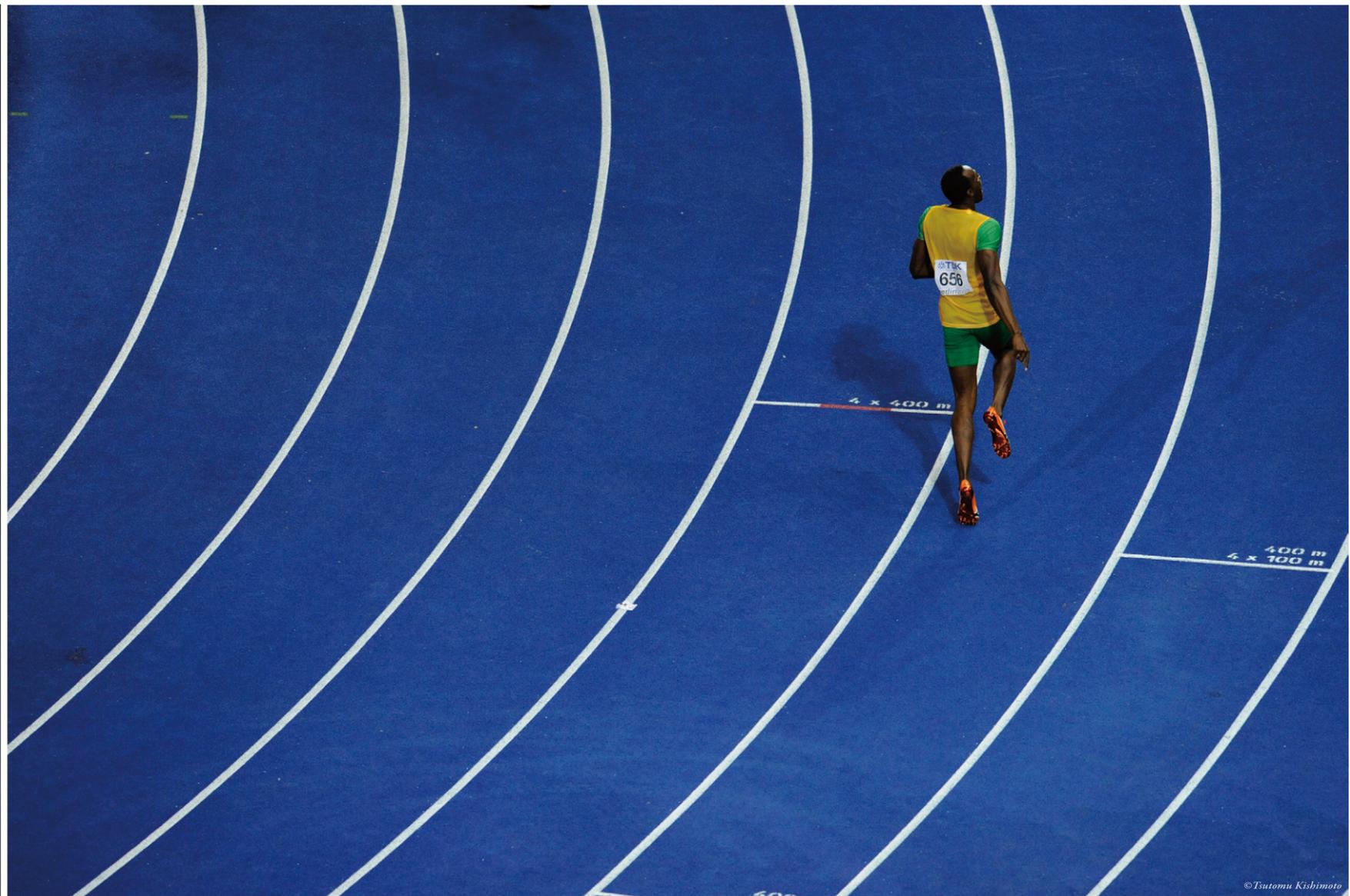
©Takabisa Hirano

Next Summer Olympic Games RIO 2016

リオ・デ・ジャネイロへ。



©Tatomu Kishimoto



©Tatomu Kishimoto

R O A D

IOCが獲得金メダルの目標を、ロンドン大会の7個から倍増する14個と発表したりオデジャネイロ五輪。その裏付けとなるのは昨年、世界選手権で、男女6階級で優勝した柔道や女子3階級で優勝したレスリング。さらに団体と個人総合と種目別を合わせて4個の金メダルを獲得した男子体操。それらがともに複数の金メダル獲得を有望視できるからだ。

だが2020年東京五輪へ向けて求められるのは、現在世界をリードしているこれらの競技の好成績はもちろんだが他の競技でも世界と戦える力を見せることが必要になってくる。それがあってこそ、選手や周囲の意識も東京へ向けて高まりを見せるだろうからだ。

そんな期待の筆頭ともいえるのが、前回のロンドン大会では11個のメダルを獲得しながらも金メダルがなかった競泳だろう。その後

to Next Summer Olympic Games RIO 2016

の金メダル獲得への取り組みの中で、昨年の世界選手権ではエースの萩野公介の直前の離脱で大会前半はうまく波に乗れないながらも、女子200mバタフライの星奈津美と女子200m平泳ぎの渡部香生子、そして男子400m個人メドレーの瀬戸大也が優勝した。

中でも星と渡部の場合は、ライバルの状況などをしっかり分析してコーチとともに戦略的に狙った金メダルでもあった。また瀬戸の場合も、故障もあってメダルを狙えた200m個人メドレーと200mバタフライで敗れながらも、最後は気持ちを建て直しての優勝と、これまで12年と14年の世界短水路選手権と13年世界選手権を含めて出場した世界選手権の400m個人メドレーではすべて金メダルを獲得しているという、本番での強さを見せつけるものだった。



©Tsutomu Kishimoto



©Takahisa Hirano



©Tsutomu Takasu



©Takao Fujita

R I O





Next Summer
Olympic Games
RIO 2016

だが日本水泳連盟の平井伯昌競泳委員長は「今回は優勝したとはいえ、3人とも記録のレベルが低かったのは事実。これでリオも優勝できると考えるのは甘い、次は世界記録を狙うくらいの意識を持たなければいけない」と気持ちを引き締めている。五輪イヤーになれば確実に世界のレベルは上がる。それを承知しているからだ。

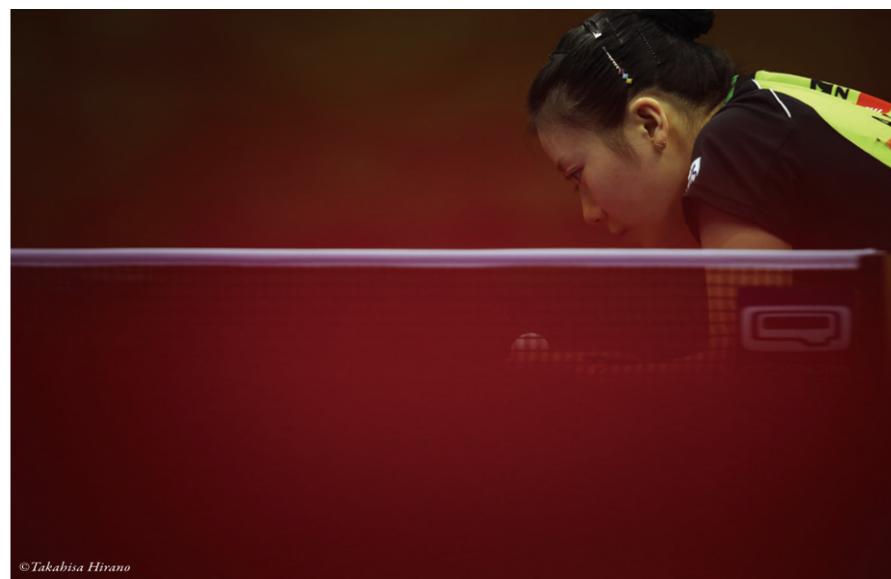
それは世界選手権の金メダル獲得で代表内定となった3人も同じ気持ちだろう。だがチームとしての戦いを考えるなら、ロンドン五輪後は日本チームのエースとして君臨している萩野の復調は絶対的に必要だ。これまでも世界記録まで意識していた彼が世界の頂点を狙うのは、瀬戸と同じ個人メドレー2種目。特に得意とする400m個人メドレーは競技初日に行われる。チームに勢いを付けるために

も瀬戸との2枚看板で臨み、金メダル獲得の可能性を高くしておきたいところだ。さらに自由形でも200mではメダルを狙える位置にいるうえ、800mリレーの貴重な戦力としてチームの勢いを盛り上げられる。

また今年2月の3カ国対抗ではベテランの金藤理絵が、渡部が代表を内定している女子200m平泳ぎで、自身が高速水着時代に出した日本記録を0秒68更新する2分20秒04をマークした。渡部の金メダル獲得と代表内定に、大きな危機感を感じたからだ。そのように内定選手を脅かすような状況を萩野も作り出すことで、瀬戸だけではなく背泳ぎでメダルを狙う入江陵介なども刺激することになる。それでチームのレベルをあげていけば複数の金も可能になり、東京五輪へ向けての大きな力になるのだ。

また他競技でも、王者・中国を追いかけ続けている卓球だけではなく、バドミントンも昨年は世界最高峰のスーパーシリーズ12試合のランキング上位8名(ダブルスは8ペア)が招待されるスーパーシリーズファイナルで、男子シングルの桃田賢斗と女子シングルの奥原望が優勝し、一時は世界ランキング1位に君臨していた女子ダブルスの高橋礼華/松友美佐紀が銅メダルを獲得している。04年アテネ五輪の頃は出場するだけといえる状況だったが、その後は世界のトップを経験している韓国の朴柱奉氏をヘッドコーチに招聘し、世界のトップとの戦いの中で選手たちにスキルを磨かせた成果だ。

桃田と奥原はリオ



©Takabisa Hirano

16年のリオを、20年の東京へつなげるために

Next Summer
Olympic Games
RIO 2016



©Hideyuki Imai



©Hideyuki Imai



©Tsutomu Takasu



©Takao Fujita



©Tsutomu Takasu

Next Summer
Olympic Games
RIO 2016

の時点でもとに21歳で、女子は世界ジュニアを連覇した高卒1年目の山口茜も世界ランキング10位で出場の可能性が大。彼らが東京で結果を出すためにも、リオでのメダル争いの経験は重要になる。

バドミントンと同じように、ウクライナから招聘したオレグ・マツエイチュクヘッドコーチが力を付けさせ、08年北京五輪の太田雄貴とロンドン五輪の団体で銀メダルを獲得したフェンシング男子フルーレも、団体の出場権は逃した厳しい状況ながら太田は15年世界選手権で優勝して現在も世界ランキング2位と、金メダル候補のひとり。彼自身も常々、「東京へつなぐためにも、リオでは絶対にメダルを獲らなくてはいけない」と話しているだけに、最後の五輪にかける思いは大きい。

またメダル獲得は厳しいながらも、陸上の男子100mは是非とも決勝進出を実現して

もりたい。その第一候補は高校3年で10秒01を出している桐生祥秀だ。昨年は太股の肉離れで世界選手権には出場できなかったが今年には9秒台突入への自信を深め、「昨年の世界選手権で9秒台を出さなければ決勝へはいけない状況になった。今年はシーズン序盤で9秒台を出し、リオの準決勝でさらに自己記録を更新するのが目標」と意欲をみせている。彼がその言葉通りの走りを実現できれば、若手からベテランまで充実した選手が揃っている男子短距離勢も刺激を受けるはず。その力が結果すれば、08年北京五輪以来の400mリレーでのメダル獲得の可能性も出てくる。今年のリオデジャネイロ五輪は日本にとって、そこでだけ結着するだけではなく次の東京五輪へ向けて重要な役割を持つ大会だ。そんな視線を持って、この夏の世界最大のスポーツイベントを見守りたい。

文/折山淑美

日本人にセパタクローができるのか

写真・文／高須カ

寺島武志



寺島武志、33歳。セパタクロー日本代表のエース。シザースと呼ばれる足を鉄のように交差させて繰り出すアタックが武器だ。身長は167cm、体重63kg、体脂肪は10%。ネット際で空中戦を繰り返すアタッカーとして、体格に恵まれているとは言えないが、これまで培ってきた経験と空中での駆け引きに優れている。日本に完全なプロ選手はまだ存在しない。普段は阪神酒販という会社でオフィス向けのサービスに従事している。ときどきアパレルメーカーのモデルとしてファッションショーに収まったり、JFAこころのプロジェクト「夢先生」として子どもたちに夢を持つ大切さを説く。

性格は穏やかで人見知りなところがあり、感情を露わにすることはあまりないけれど、2014年の仁川アジア大会でメダルを獲得したときは涙を流してチームメイトと抱き合った。セパタクローについて話すときは、これまでの経験を交えた持論を落着いた口調で語ってくれる。

セパタクローの本場タイにはプロリーグがある。10チームがエントリーして、ホーム&アウェイ方式で優勝を決める。開催時期はだいたい6月から8月くらいに始まって5ヶ月間。だいたいというのは毎年直前まで日程が決まらないからだ。

チームの運営はマチマチだけれど、中には試合前日に集まって、たった一度の全体練習を経て試合に臨むようなチームもある。給料は試合終了後にコート上で手渡しされ、金額は監督の気分次第。良くも悪くもタイ人のルー



「来年は打ち克って言われた。
偏見に打ち克って言われた。」

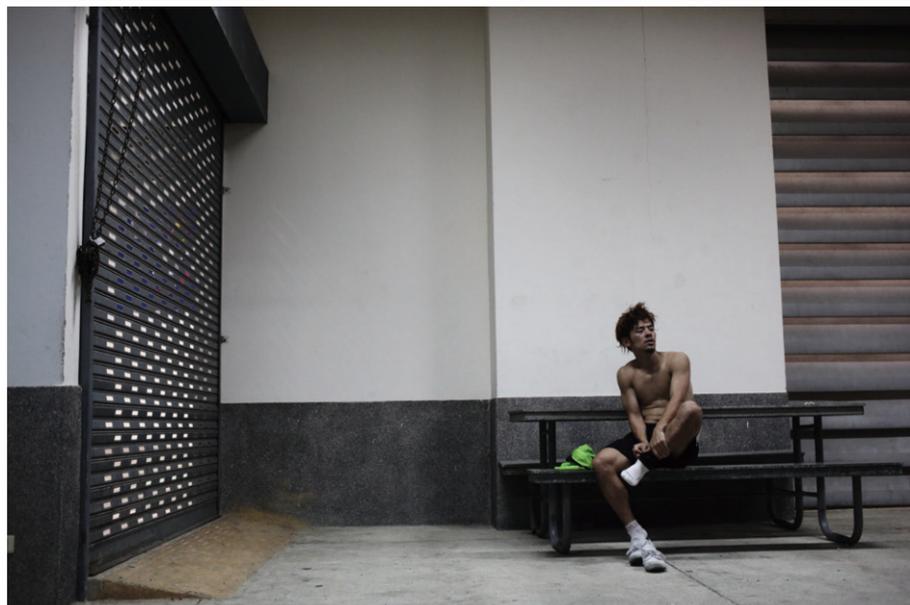
Retrospective
Takeshi Terashima

ズきが発揮されているが、その競技レベルは圧倒的だ。

寺島がタイのプロリーグに挑戦したのは2011年のことだ。前年に広州で開催されたアジア大会で念願だったメダルを獲得したことで、新しい目標が必要だった。脳裏をよぎったのは本場タイでの挑戦だ。奇しくもバイオニアとして信頼し、タイでの挑戦を7年間続けていた寺本進と入れ替わる形でタイへ渡ることになった。初めて経験する異国の地での生活は右も左も分からず、文化や風習の違いに戸惑い、チームメイトとのコミュニケーションすらままならない状況だった。まるで練習生のような扱いの日々には自らの無力さと悔しさが残らなかった。それから毎年、海を渡り「日本人にセバタクローができるのか」という偏見と戦いながらも真摯にボールを蹴り続け、何が通用して、何が足りないのかを実感できるようになった。

昨シーズン、優勝チームのナコンパトムと対戦したときのことだ。相手は寺島を穴と考え狙い撃ちにしてきた。そこでミスせず対応し、逆に強烈なアタックを見舞った。後日、日本代表として再訪したとき関係者や地元民から「来年はウチに来い」と声をかけられた。自らのプレーを認めてもらったことが嬉しかった。

セバタクローと出会って15年。若いときは先輩の背中を追いかけてガムシヤラにプレーした。気がつけばベテランと呼ばれる年齢になり、嫌でも業界全体に目がいくようになる。アジア大会でメダルを獲っても世間から評価して



「セバでメシを食べていきたい」



Retrospective
Takeshi Terashima

もらえない寂しさや、先人たちの築いてきた恩恵に甘えてしまっている現状にもどかしさを感じていた。

悩み立ち止まっている時間はない。昨年、日頃から選手としての活動に理解を示してくれている阪神酒販を説得して、現在日本唯一の実業団チームを結成した。会社に頼るばかりでなく、自分たちが活躍することで、会社にもメリットをもたらしたかった。その積み重ねがセバタクロの価値を高めることに繋がると信じているからだ。

また実業団として活動するようになって思いもなかった発見があった。チームメイトと同じ職場で働くことで、顔を合わせる機会が増え、セバタクロについて一緒に考える時間が増えた。結果としてこれまで以上に連帯感が増すことになった。やがて、自らが活躍することよりもチームで勝つことの喜びに目覚め、その先にあるものが臍氣ながらに見えてくるようになった。

寺島には夢がある。セバタクロと共に生きていくことだ。もっと直接的な表現をするならば「セバで飯を食っていく」こと。本人はちよつと生々しいですよね、と笑っていたが、そこには生涯をかけてセバタクロに関わっていききたい、選手が安心してプレーを続けられる環境を作りたい、後輩たちにセバタクロ選手であることに誇りを持ってもらいたい、という願いが込められている。実業団で喜びを共有する。日の丸を背負いメダルを狙う。タイで自らの限界に挑戦する。それらすべては夢までの通過点でしかない。寺島武志はまだ夢の途中にいる。



©Naoyoshi Sueishi

AJPS マガジン

vol.33

Association
Japonaise de la
Presse
Sportive

編集・発行人
水谷章人

編集長
戸塚 啓

フォトディレクション&編集
スエイシナオヨシ

編集委員
折山淑美 近藤篤
藤田孝夫 三木麻里

広告
水谷たかひと

アートディレクション&デザイン
本多伸二

印刷
株式会社 誠晃印刷

編集・発行所
一般社団法人
日本スポーツプレス協会 (AJPS)
〒112-0013
東京都文京区音羽 1-21-10 関根ビル 603
TEL:03-3946-9033 / FAX:03-5981-9660
<http://www.ajps.jp/>

※各原稿は 2016 年 3 月 9 日現在の内容です。本誌掲載記事・写真を無断で転載することは固くお断り申し上げます。

AJPS マガジン vol.33 May. 20. 2016 (第2版2刷)
定価 880 円(税込)

編集後記

スエイシナオヨシ

写真を生業としている自分でも、他人の写真で、しかも媒体に載る前の「生」の状態でこれだけの量を見る機会はありません。この媒体の写真セレクトなどに関わることで改めて感じたのは、仕事の依頼内容とカメラマン個人の考え方で写真は変わる、ということ。スポーツの試合や競技がたとえ同じだとしても、まったく違う作品になることがある。

大きく分けると、写真は二種類に分けられるのではないだろうか。記録として残すものと、写真自体が作品として価値あるものだ。たとえば、サッカーの試合を決定づける得点シーンがあったとする。貴重な記録として残すべきであることは間違いないが、必ずしもそのシュートが美しいとは限らない。

し、ビジュアルとして人の心を動かす写真になるかはわからない。スポーツ写真は、たとえ記録すべきものではなくとも、その競技者の身体が躍動する瞬間をとらえ、後々まで記憶に残り続けることもある。

記録として貴重であることと、写真それ自体として評価が高いことは、ほとんどの場合共存しないのだが、ときにどちらも兼ね備えた写真がある。たぶん、それが本当に凄い写真なのかもしれない、などと最近も考えている。そして一写真家としても、そんな写真を撮りたいと思っている。

媒体の中でもう一つ大きな要素が文章だ。新聞であれ雑誌であれ、スポーツを追うものであれば、写真とともに文章がセットになることは避けられない。しかし、作品としても価値のある写真が掲載される場合、文章が並ぶことで違和感が生まれることもある。写真は、時にその一枚だけで見る側に感

動や言葉にならないメッセージを送ろうとしている。文章が必要以上に説明しすぎること、読み手の想像力を奪うことにもなりかねないことを私は多く経験してきた。あなたが何かに胸を揺さぶられたり、人を好きになったりするときに、言葉や理由はいらないでしょう？

ただ、よりわかりやすく、より簡単に手にとってもらうために、説明過多になるのが現在の日本の雑誌に見られる傾向ではないだろうか。そして、自戒をこめて。言葉が必要ないほどの写真を撮らなければ、そんな偉そうなことを言ってもまったく意味がない。貴重な記録と、作品性の高さを兼ね備えること。とても難しいけれど、私たちはずっと追いかけていくべきことだと信じている。

最後に、この本に関わったすべての人、そして手にしてくれたあなたに心からの感謝。

一般社団法人 日本スポーツプレス協会賛助会員 (2016.5 現在、順不同)

キヤノンマーケティングジャパン株式会社、株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン

株式会社堀内カラー、富士フィルムイメージングシステム株式会社、株式会社フレームマン

オリンパスイメージング株式会社、学校法人専門学校 東京ビジュアルアーツ

株式会社朝日新聞出版 アサヒカメラ編集部、有限会社イマジン・アートプランニング

サンディスク株式会社、マンフロット株式会社、ワイズ・スポーツ株式会社

株式会社日本写真企画、山本光学株式会社、株式会社写真弘社、株式会社学研プラス CAPA 編集部

株式会社ジェイワールドトラベル、日本ウェルネススポーツ大学、銀一株式会社

HCL ネットサービス
HORIUCHI COLOR

感動を再現する。



大サイズプリントとパネル加工を同時にオーダー ネットdeザ・プリント

銀塩の表現力を最大限に活かしたラムダプリントで、作品表現に最適な組み合わせが選べ、ドライマウント・マットパネル・アルミフレームのパネル加工も同時に注文できます。

高品質なフォトアルバムやポートフォリオの制作に ネットdeザ・フォトアルバム

多彩な編集機能と仕様でさまざまな用途に合わせ、表紙はハードとソフト、本文は高級銀塩写真とオンデマンド高精細印刷の各2タイプでオリジナリティ溢れる作品集ができます。

インクジェット・プリントを極める ファインアート・プリントサービス

作品イメージを極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数の6種類のアーティスト用紙でご提供します。店頭にプリントサンプルを用意しておりますので、是非ご覧ください。

個展・グループ展などにご利用ください。

HCL フォトギャラリー新宿御苑

東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎03-3226-9602

●平日=10:00~19:00 ●土曜=10:00~17:00

●最終日=10:00~15:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始

●地下鉄丸の内線「新宿御苑前駅」新宿門口出口より徒歩1分

HCL フォトギャラリー名古屋

名古屋市中区錦 1-11-20 大永ビルディング 2F ☎052-211-6151

●平日=9:00~18:00 ●土曜=9:00~17:00

●最終日=9:00~13:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始

●地下鉄鶴舞線・東山線「伏見駅」10番出口より徒歩1分

各サービスの詳細やご注文はホームページから…www.horiuchi-color.co.jp

最高峰のカメラには、最高峰の1枚を。
信頼のブランド、サンディスクの
大容量・超高速コンパクトフラッシュ。

VPG65に対応し、高画質動画の撮影にも最適な
サンディスク最高峰のコンパクトフラッシュ、エクストリーム プロ シリーズ。



最大
160 MB/秒*
の読取り速度

サンディスク エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュ® カード

256GB UDMA7 対応

UDMA7

UDMA7対応カメラとの組み合わせで、
高精細映像の録画や連続撮影をより快適に。

[VPG65]

65MB/秒の最低転送速度を保証する
ビデオパフォーマンスギャランティーVPG65に対応。
シネマ品質の4K動画やフルHD動画の撮影や録画に最適。

[大容量]

256GBの大容量で、高速連写による
膨大なRAW+JPG画像も、
4K動画・フルHD動画も保存。

[耐久性]

衝撃、振動、気温、湿度など過酷なテストをクリアし、
極限の状況下でも正確に動作するよう設計。

[信頼性]

厳しいストレステストをクリアした無期限保証**付き。

超高速性能・大容量

Extreme Series

エクストリーム シリーズ

サンディスクはプロカメラマンの**83.8%***から「安心のブランド」と評価されました。

サンディスクは2015年「メモリーカード」シェアNo.1ブランド**です。 [サンディスク](#) [検索](#) [Facebookでサンディスクの最新情報をチェック!](#)

*2015年12月当社調べ(複数回答あり)。詳細は当社Webにてご確認ください。http://www.sandisk.co.jp/leader015/ **全国有力家電量販店の販売実績を集計/GUK Japan調べ (メモリーカード2015年メモリーカード、メーカー別数量・金額シェア) ©SanDisk, SanDiskロゴ, Compact Flash, コンパクトフラッシュ、及びSanDisk Extreme PROは、米国及びその他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。その他の商標も特定の目的のために使用されるものであり、各権利者に帰属している可能性があります。 *1 最大読取り/書き込み速度の数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。ホスト機器によって読取り/書き込みの速度は異なる場合があります。1メガバイト(MB)=100万バイト、1ギガバイト(GB)=10億バイト、1秒速=150KB/秒。記載された容量の一部はフォーマット及びその他の機能に使用されるため、すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。 *2 保証内容に基づきます。